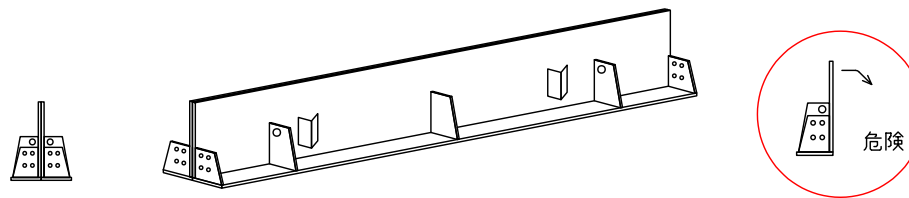


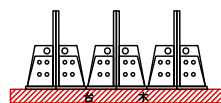
OLY工法 施工要領

OLY保管

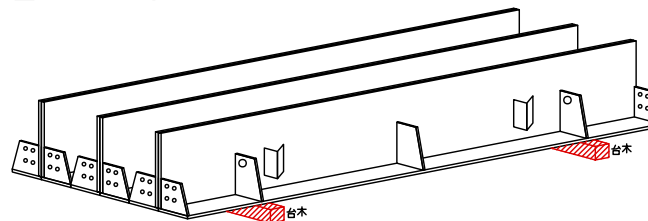
- OLYは2枚一組で平らな場所に保管する。
- OLY移動中に1枚単独になる場合は、絶対にOLYの背面に入らない。



- 置場では台木を使用し、平置きとする。
(2段以上は積まない。)



(腐りかけの台木は使用しない。)



株式会社大盛工業
OLY工法研究会

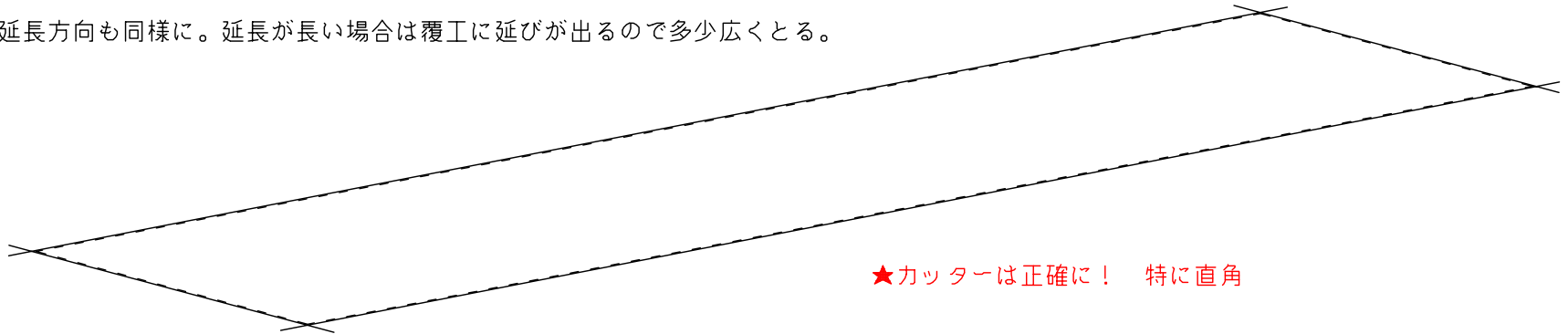
道路切断。 。 。 覆工幅 + 35mm × 両側が基本
覆工幅 2m → カッター幅 2.07m
舗装厚、道路勾配等を考慮し決定する。

OLYの厚み 19mm、余裕 16mm

※横断勾配を付けて施工する場合は、
勾配 1%あたり 5mm 程度余分にカッターを入れる。

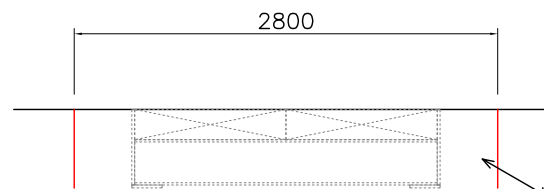
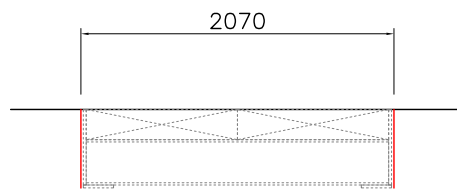
※覆工板開閉をスムーズにするために余裕を持たせる場合はその分の幅も考慮する。

※延長方向も同様に。延長が長い場合は覆工に延びが出るので多少広くとる。



※通常のカッター幅

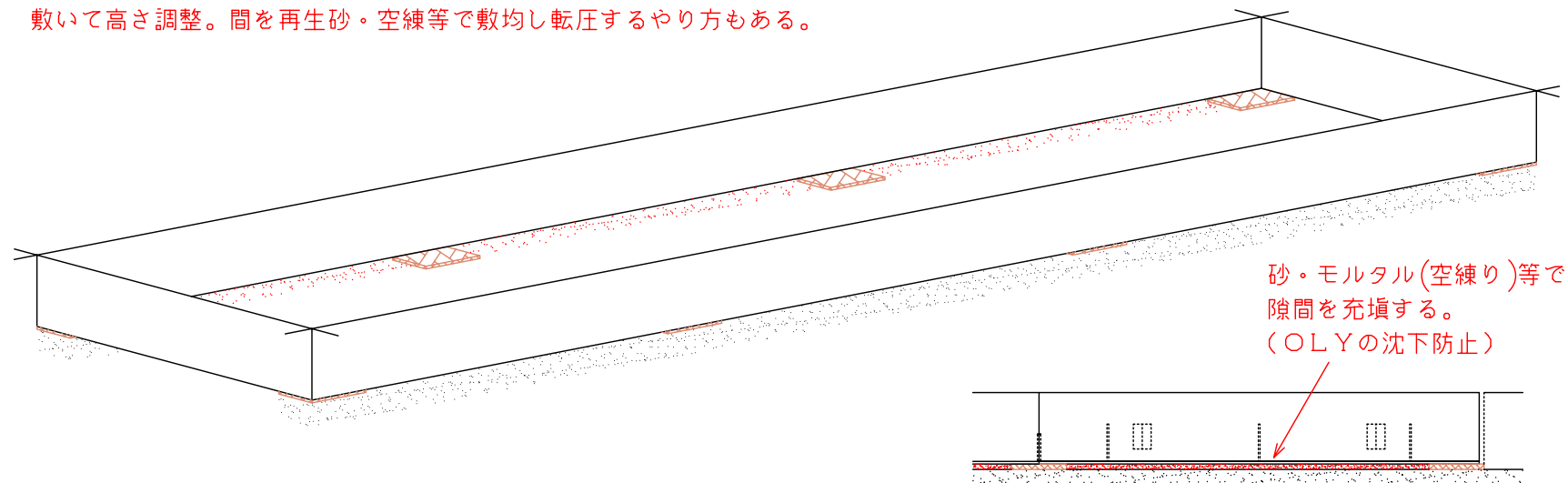
※舗装の勾配がきつい場合、縦断・横断勾配が複雑な場合、
道路面のわだちがひどい場合等は、OLY外側の転圧が
できるくらい広く切断することもある。(擦り付けが必要)



埋め戻し、擦り付け

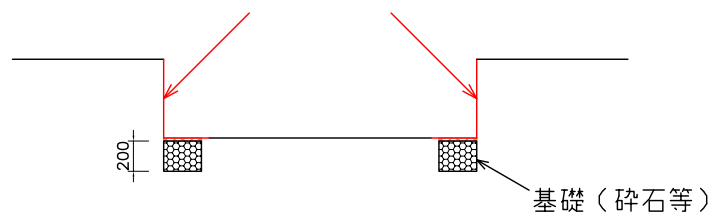
- 掘削。。。OLY型式+2cm~(例 OLY 50型→52cm~)
 OLY下部は、設計に準じて基礎を設ける。
 設計が無い場合は堅固な支持地盤となるよう、必要に応じて改良を行う。
 (一般的に20cm程度を砕石等により置き換える。)
 掘削面は小石等の出っ張りが無いようきれいに成型する。
- 転圧。。。OLYを設置する幅を転圧し、不陸を整える。
 再生砂、空練等を使用するとやり易い。

★OLY端部、ジョイント部の下に木矢板、石板、コンパネ等を敷いて高さ調整。間を再生砂・空練等で敷均し転圧するやり方もある。



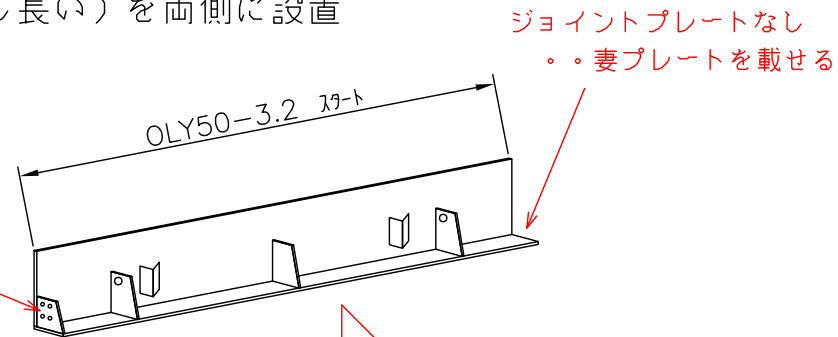
掘削側面に小石等の出っ張りが無いように

★サイド部と妻部の高さが違うので注意。

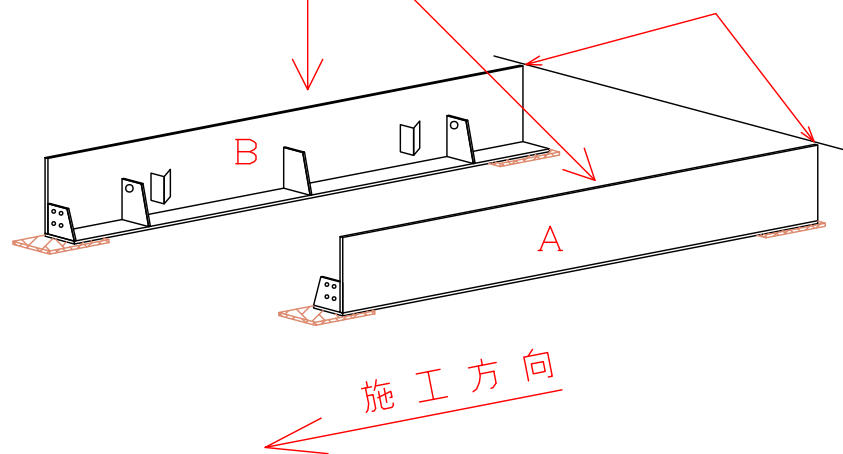


○LY設置。。。まずはスタートプレート（2m、3mより少し長い）を両側に設置
施工方向に向かって左がA，右がB

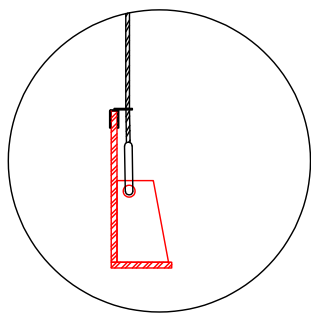
ジョイントプレートあり
。。次のOLYと連結



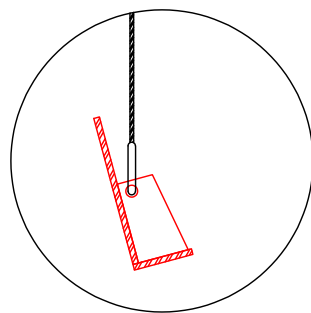
★端部に妻を載せるため
2~3cm開けておく。



OLY専用吊金具 使用



OLY専用吊金具 未使用

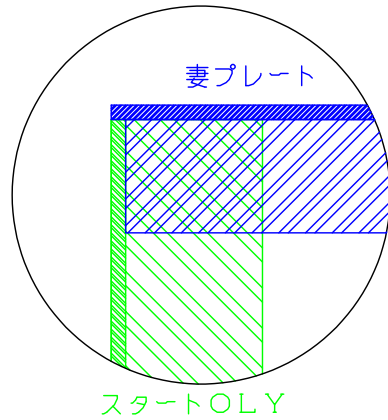


※OLYをクランプでは絶対に吊らないこと。

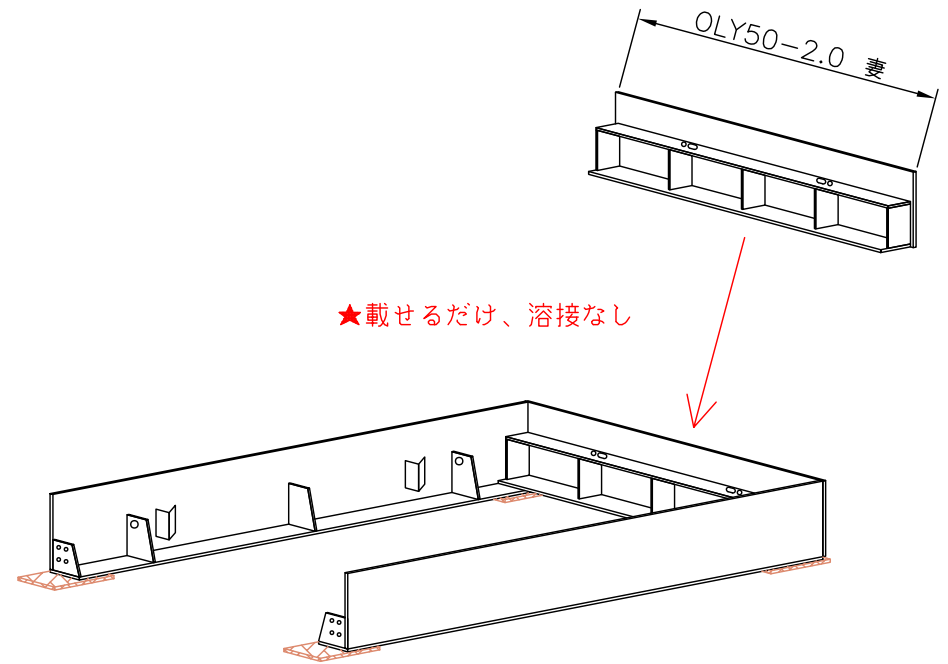
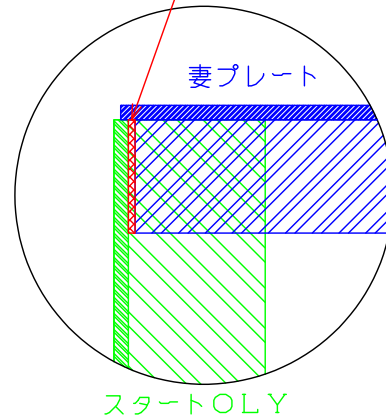


OLY設置。。。スタートプレートに妻プレートを載せる。
妻プレートの下部の地山の隙間に、再生砂等を充填する。

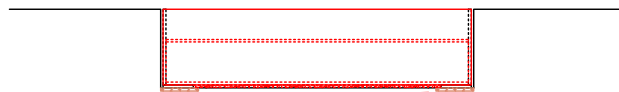
妻プレートの耳部分がスタートプレートにかかり、
内側へ倒れない仕組み



覆工に余裕を持たせたい場合は
妻プレートとスタートプレート
の間にベニヤ板等を挟む



★妻部延長方向のカッターの余裕が大きいときは、
妻プレートが外に倒れないようにバタ角等で押さえる。
(妻プレートの裏側はまだ埋め戻さない)

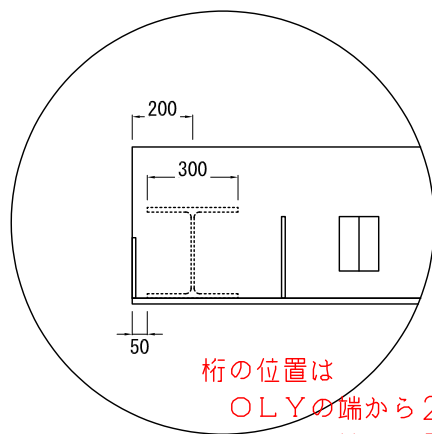


★地山と妻プレートに隙間ができないように。
たわみ、沈下防止

○LY設置。。。受桁を設置

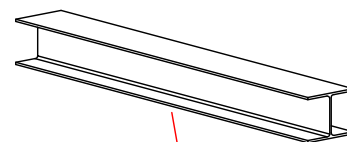
この時点で対角を図り、直角がでているか確認する。

○LY 50型の場合

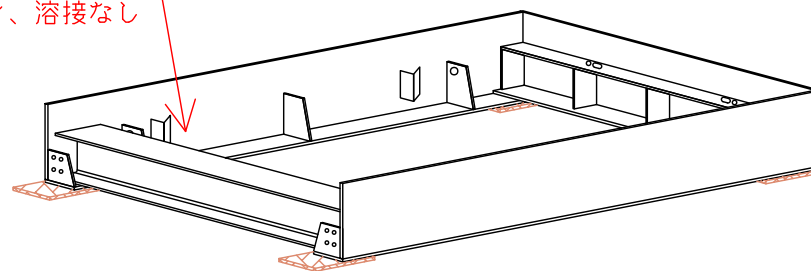


桁の位置は

- LYの端から200mmが桁のセンター
- LYの端から50mmが桁の端



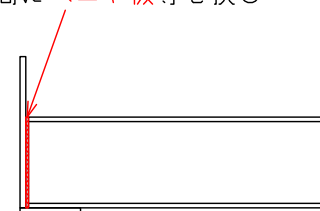
★載せるだけ、溶接なし



★直角の調整にバックホウで○LYを押す場合は、必ず当て木を使用すること。

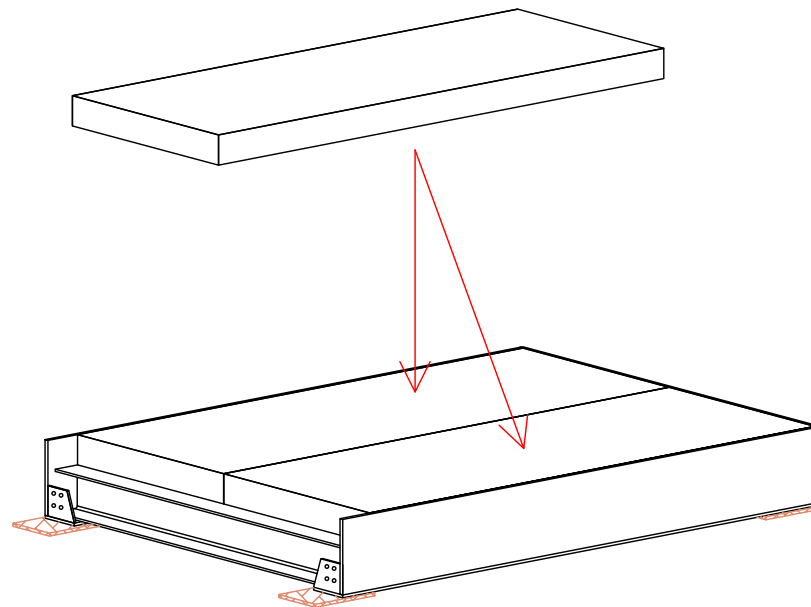
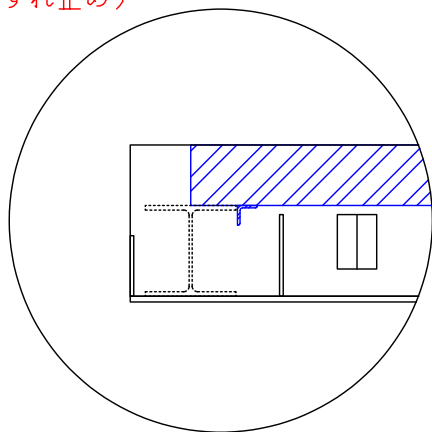
★直角の調整が終わったのちに、妻プレートの裏側を埋め戻す。

※覆工に余裕を持たせたい場合は受桁と○LYプレートの上にベニヤ板等を挟む

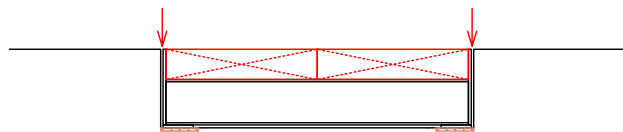


OLY設置。。。覆工板を設置

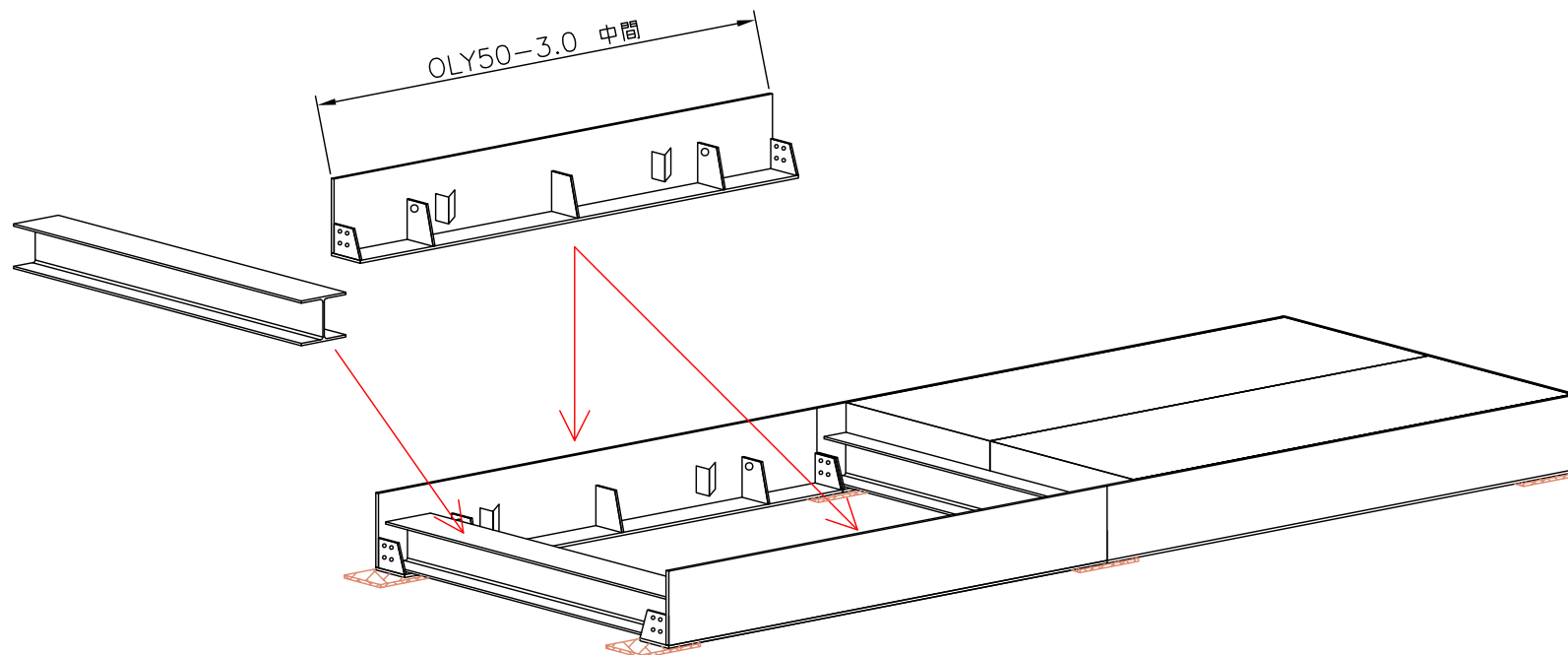
★覆工板のツメは桁に合わせて手配する。
(ずれ止め)



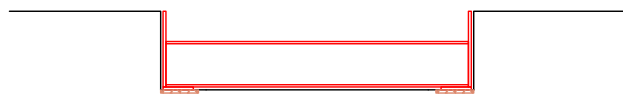
覆工板の設置が終わったら順次、
舗装とOLYの隙間の養生を行う。



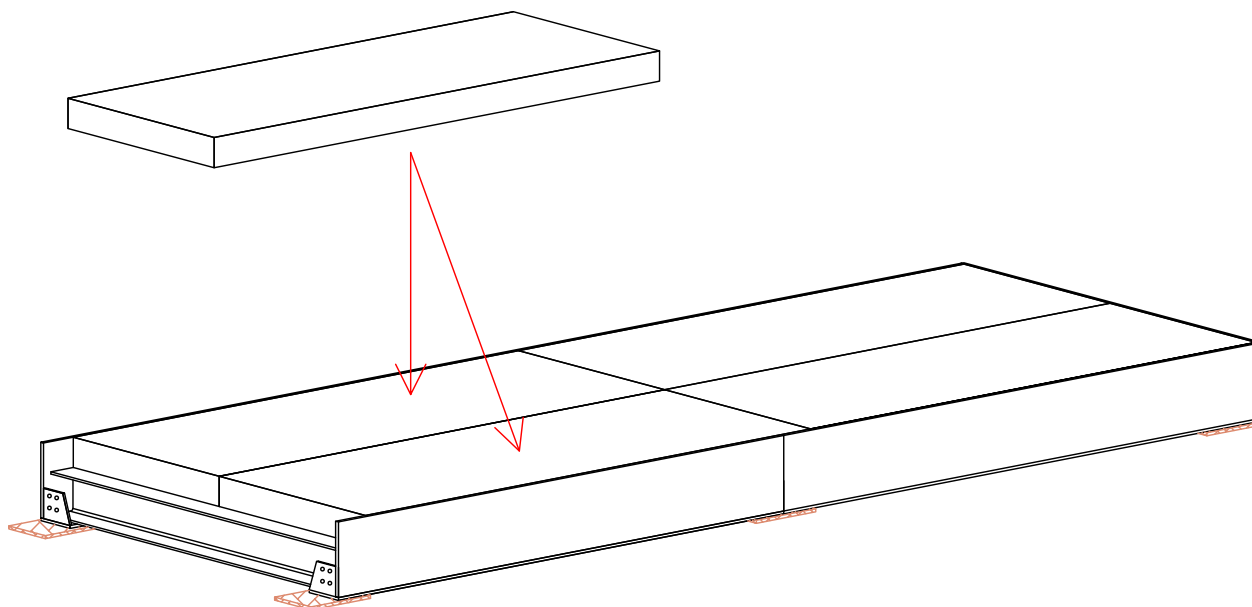
○LY設置。。。中間プレートを設置し、ボルトナットにて緊結する。
使用ボルトM22(ラチェット頭32使用)
受桁設置



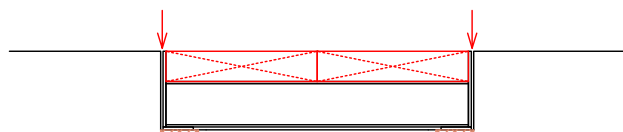
★OLYのプレートによっては多少の誤差があるので
天端を合わせてボルトを本締めする。



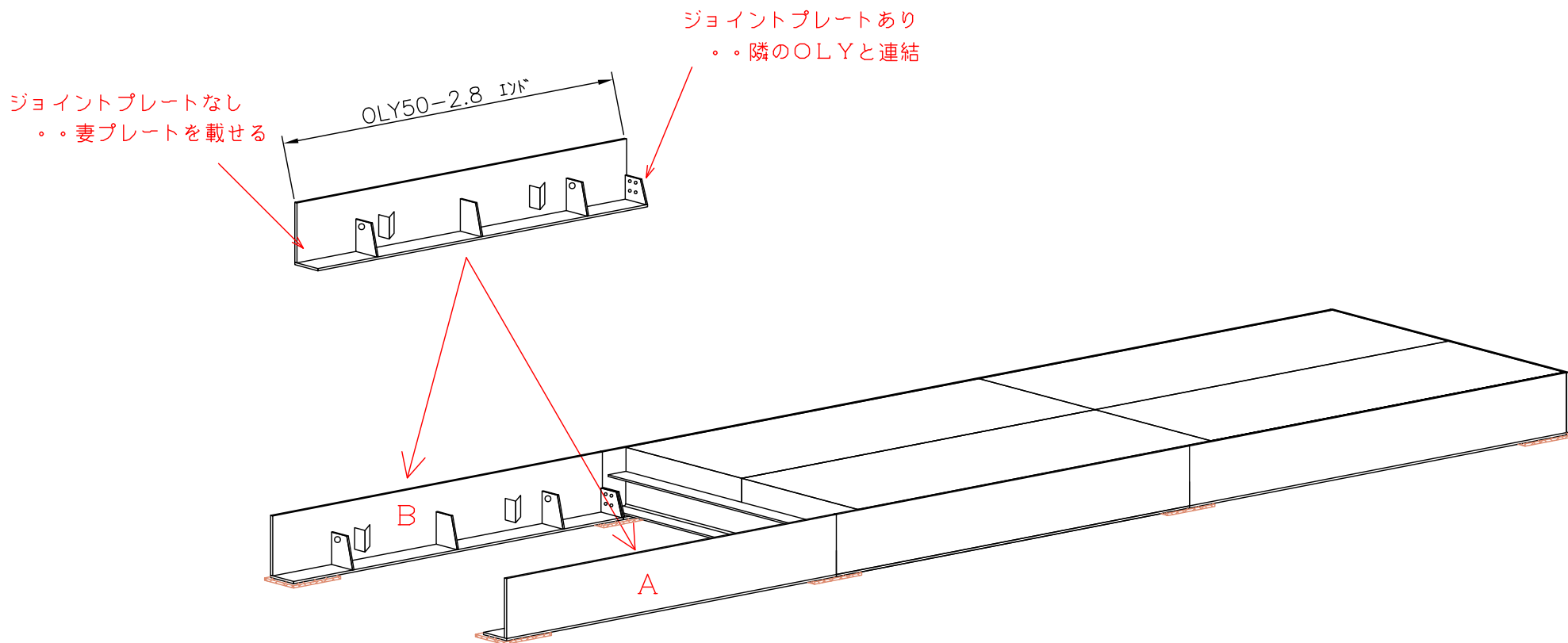
OLY設置。。。覆工板を設置



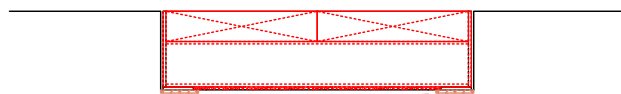
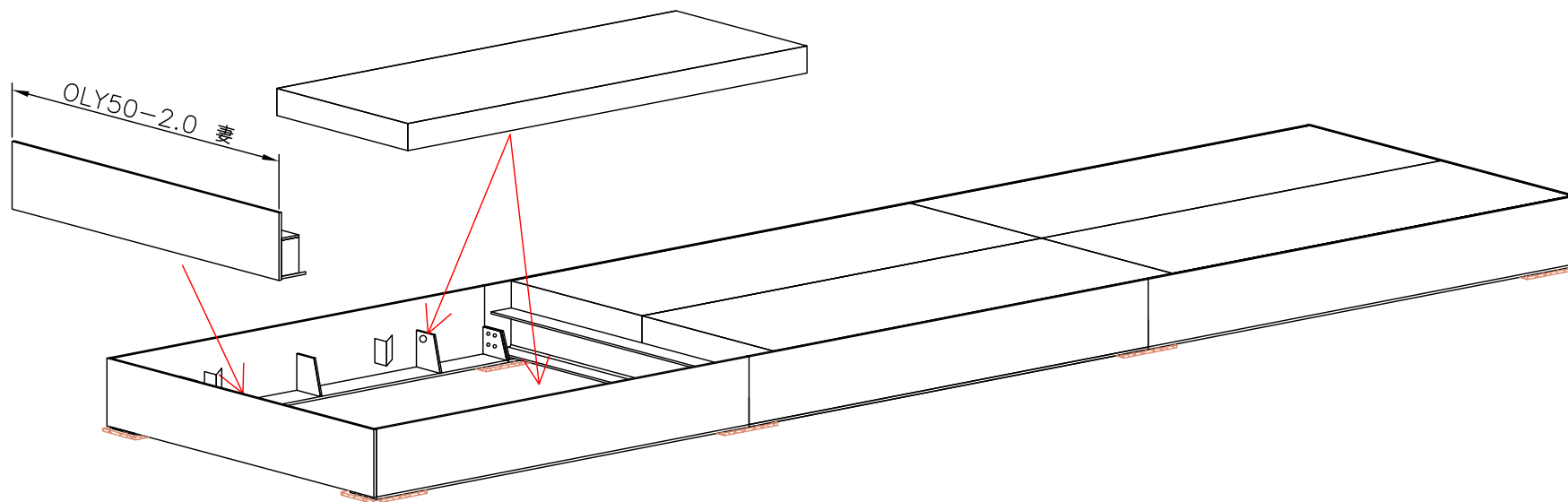
覆工板の設置が終わったら順次、
舗装とOLYの隙間の養生を行う。



OLY設置・・・エンドプレートを設置



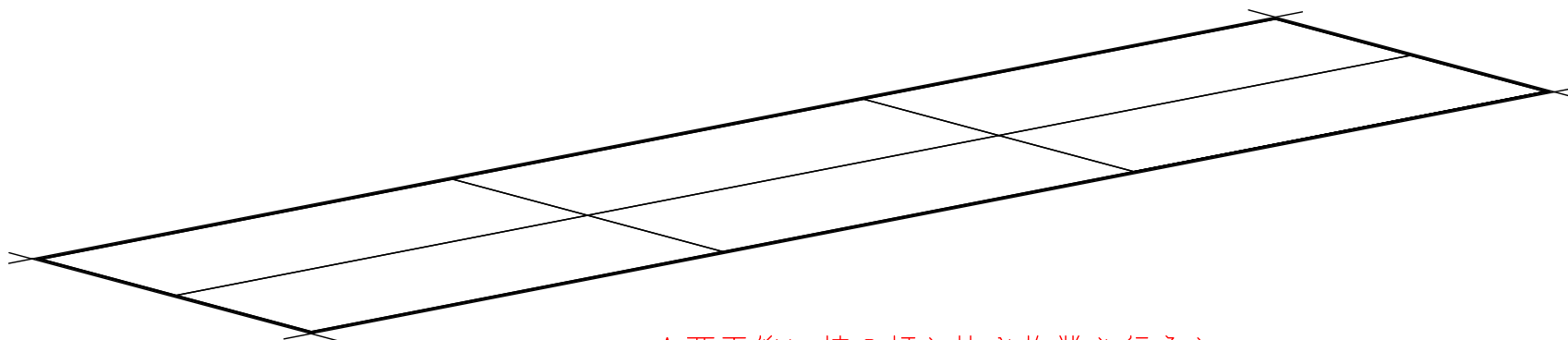
○LY設置。。。妻プレートを設置
覆工板を設置



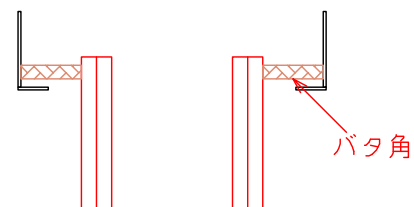
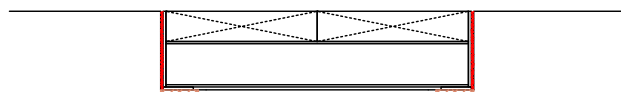
★地山と妻プレートに隙間ができないように。
たわみ、沈下防止

交通解放。。。道路とOLYの隙間を再生砂・常温合材等を使用し充填する。

★定期的に隙間の砂等が抜けていないか点検する必要があります。

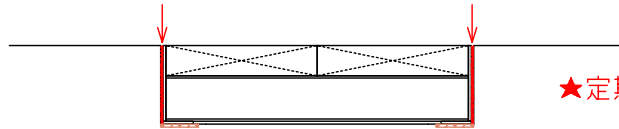


- ★覆工後に杭の打ち抜き作業を行うと、地山が緩んでOLYが寄ることがあります。
- ★対策としては以下の通り
 - 受桁を外す際は、2本連続で抜かないこと。
 - 杭から控えをとること。
 - 予備で水圧・油圧ジャッキがあると良い。(ジャッキで張ってから受桁を外す)
 - 最初から覆工幅に余裕を持たす。



交通解放。。。道路とOLYの隙間を再生砂・常温合材等を使用し充填する。

覆工板の設置が終わったら順次、
舗装とOLYの隙間の養生を行う。



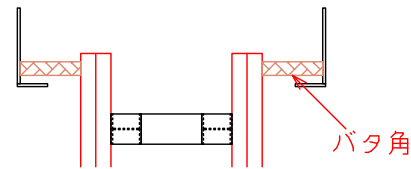
★定期的に隙間の砂等が抜けていないか点検する必要があります。

覆工設置後の注意点

★覆工後に杭の打ち抜き作業を行うと、地山が緩んでOLYが寄ることがあります。

★対策としては以下の通り

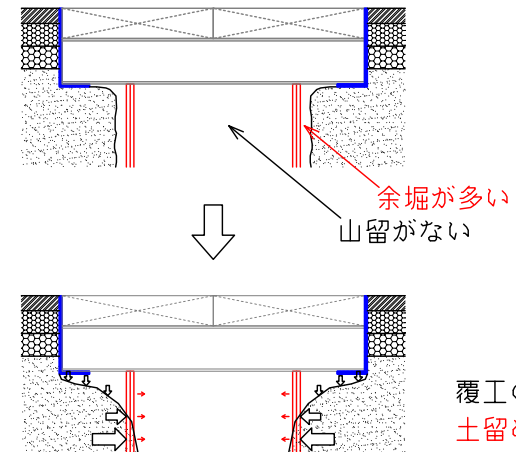
- ・受桁を外す際は、2本連続で抜かないこと。
- ・杭から控えをとること。
- ・予備で水圧・油圧ジャッキがあると良い。
(ジャッキで張ってから受桁を外す)
- ・最初から覆工幅に余裕を持たす。



★特に土留めを建て込みでの施工する場合
(軽量鋼矢板、アルミ矢板、簡易土留め、
ライナープレート等)、
土留め背面の裏込め・転圧が不十分だと、
交通開放と同時に覆工が下がる場合があります。
また、山留の早期設置を行わない場合も、
同様に覆工が下がる危険があります。

★対策

- ・土留め背面の裏込め・転圧を確実に行う。
- ・山留を速やかに設置する。



覆工の沈下
土留めの変形